第３学年　保護者の皆様

４月に実施されました『全国学力・学習状況調査』の結果が出ましたので、その結果に基づき、本校の教育課題を明らかにし、学力向上に向けた今後の取組等を次の資料にまとめましたのでご一読ください。

◆『わが校の強み・弱み評価シート』

本校生徒の強み・弱みおよび生活実態分析、授業改善等、本校の具体的な取組内容

なお、分析結果については、全教員が共通理解し、学ぶ力向上策に基づく授業改善等、新たな取組も推進したいと考えております。保護者の皆様もご一読いただき、ご理解・ご協力をお願いします。

【令和８年度『全国学力・学習状況調査』分析結果】

わが校の強み・弱み分析・評価シート

◆結果

《強み・弱み》

【国語】

「国語の授業で互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論に導くために考えをまとめる」、「文章を書いた後、読み手からの助言をもとに自分の文章を再構築する」という質問項目において、90%以上の生徒が「そう思う」と回答しており、国語の授業に対して価値を見出している生徒が多いことがわかりました。

「読むの分野」（文章の内容を読み取り、説明をして適切なものを選ぶこと）に加えて、「書くの分野」（問題文から提示された内容をもとに自分の考えをまとめ記述すること）は大変よくできていて、無回答率も大変低かったです。ただ、全国平均に比べ、「ら抜き言葉」の選択など、文法事項があまり理解できていなかったり、上記の通り記述は得意ではありますが、書かれた内容から新たな自分の考えをつくり、記述するのは苦手であったりすることがわかりました。

【数学】

解答率が全体的に高く、粘り強く問題に取り組んで、自分なりに答えを出すことができていることがわかりました。

計算や記号を選ぶなど、特に解答しやすい問題に対しての解答率や正答率が高かったですが、学年の終わりに学習する単元の内容において理解があまりできていないと思われるところがわかりました。

【英語】

「英語の授業が分かりやすい」、「英語の授業で学んだことが将来社会に出た時に役立つ」と考え、やる気を持って英語学習に取り組んでいる生徒が多くみられます。学習につまずきのある生徒は一定数いますが、その割合は少なく、日々の学習で理解出来ている生徒が多いと思われます。

聞いたり読んだりして概要をとらえたり、必要な情報を選択する能力が高く、普段の授業で取り組んでいることが生徒の実践力に結びついていると考えられます。英作文に関しても与えられた情報について過去形を用いて英文を書く力が高く、英文の構造を理解し、正しい語順で書くことが出来ていました。ただ、無回答の割合は少ないですが、英文で自分の考えを伝えたり、物事を説明したり自分から発信する力が弱い傾向がみられました。自分の身近な話題に関しては書いたり話したり出来ますが、そうでない話題に関しては難しいと感じている生徒が多く、リスニングについては、細部まで聞き取れていなかったり、英作文については３つある条件が満たされていない誤答が多かったり不注意が目立ちました。

◆生徒質問紙

【生活実態】

1．生活習慣・学習習慣

決まった時間に起床・就寝する、毎朝、朝食を食べてきている生徒が多く、基本的な生活習慣は身についているといえます。ただ、「学校の授業時間以外に、普段一日あたり、どれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、「1時間以上2時間より少ない」と答えた生徒の割合は全国よりも高く、家庭学習に取り組む時間が短い傾向がみられました。

2.自己有用感・学校満足度

「自分にはよいところがある」、「先生は自分の良いところを認めてくれている」、「学校に行くのは楽しい」、「友達関係に満足している」と答えた生徒の割合は全国平均より高く、学校満足度、自己有用感も高いことがうかがえます。

また、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さをいかして解決方法を決めている」、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は高く、互いの考えを尊重しながら学習や活動に取り組んでいるという意識がうかがえます。

3.規範意識

「人が困っているときは、進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合や、「いじめは、どんな理由があっても許されない」と答える生徒が多く、規範意識の高さがうかがえます。

◆学力向上策について

【国語】

〇日々の授業において、協働的な学びを効果的に入れることで、自分の思いや考えを広げ、深めることを目指していく。

〇プレゼン発表の中で、自分の考えを確かにし、相手に効果的に伝えられる力をつけていく。

【数学】

〇自分の考えをまとめ、周りと関わりながらアウトプットする取組を行っていく。

〇学年の終わりに学習する内容も、小テストを取り入れるなどして、学習内容の定着を図る。

【英語】

〇基礎的な力は身についているので、問題をよく読んで粘り強く取り組む力をつける。

〇自分から発信する力をつけるため、英文で自分の考えや状況を説明するために必要な構文のパターンを練習する活動を計画的に取り入れていく。

〇授業中のペアワーク、グループワークの中で、1 文で終わるのではなく 相槌を打ったり質問をしたり、プラスワンの返答が出来るように指導する。

〇タブレットを効果的に使用する。「聞くこと」「話すこと」についてはタブレットを用いた学習が効果的である。「読むこと」「書くこと」に関しては紙の教材の方が効果的と言われるがタブレットで入力する機会も取り入れていく。

◆家庭における学習対策

【国語】

〇読書週間の取組を利用し、家庭においても読書を推奨する。

〇タブレット端末での知識の復習を行う。

【数学】

〇授業などで、現時点で取り組むことができるワークを提示し、家庭学習に取り組むように声をかける。家庭学習に取り組むことが難しい生徒には、個別に対応する。

【英語】

〇教科書や副教材の中の音声 QR コードを利用して家庭でもタブレットやスマートフォンで音声を聞いたり発音したりする時間を持つ。

〇わからない単語を調べながら学習した構文を用いて英作文の練習をする。読んだ英文についての自分はどう思うかなど、日頃家庭学習をする中でも自分の意見を述べることを意識しておくことが大切である。

〇文字をていねいに書く習慣をつける。

指導の充実に向けて

本校では、「心豊かでたくましく社会を生き抜く子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、確かな学力を身につけるために、主体的・対話的で深い学びの充実による授業づくりの実現に向けて、学び合いと効果的なタブレット端末の活用を軸とした授業改善に取り組んでいます。学校での「協働的な学び」や「タブレット端末を活用した学習」が定着してきており、その取組に生徒は満足していて、学習の意欲や理解につながっています。

一方で、家庭ではスマートフォンの利用機会が増え、家庭学習の時間に大きく影響しています。また、新聞を読む機会や読書に費やす時間の減少が見られ、家庭学習の定着が課題です。

このような本校生徒の実態を鑑み、今年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づいて授業改善を進め、家庭や地域と連携・協働しながら特色ある学校づくりを推進し、次代を生き抜く力を育むよう支援していきたいと考えています。